

2020年1月1日発行
NO.3

北海道議会議員

木葉淳 道政報告



き ば じ ゆ ん ど う せ い ほ う こ く

北海道議会議員木葉淳道政事務所 江別市野幌町 79-7 ホワイトピア野幌 2階



木葉淳 (道議会議員)
きば じゅん

一期目の決意



この間に行われた定例会では、
 鈴木新知事の公約でもあった「ほつ
 かいどう応援団会議」や「統合型
 リゾート（IR）」「JR路線存続」
 多くの道政課題に対する議論が行
 われました。

「統合型リゾート（IR）」に關

しては、今回の北海道への誘致に
 ついては断念するとしたものの、
 「来るべき時に挑戦する」と今後へ
 の再挑戦の意向を示しました。「幌
 延深地層研究センター」研究期間延
 長」については、「九年間での研究
 終了と受け止めている」「再延長
 は認めない」としたものの、核の
 ゴミの最終処分場になりかねない
 不安は払しょくできない状況と
 なっています。

また、江別市においては、喫緊
 の課題である「市立病院の問題」
 や「生涯活躍のまち構想」「江別駅
 前再開発」などの、大きな課題が
 あります。

四月に行われました、北海道議
 会議員選挙では、多くの皆様のご
 支援をいただき、北海道議会議員
 としての活動をスタートさせること
 ができました。

道議会議員は現在全道各地から
 100名が選出されています。私
 の所属する民主・道民連合は二七
 名、「対話と連携」を心掛け、団
 結して議会に臨んでいます。「数は
 力」の道政運営ではなく、しっかりと
 いた議論の下、「理解と納得」
 の道政となるように働きます。

今後も、地元江別市を起点に「草
 の根からのまちづくり」をめざし、
 道政・市政の様々な課題としつか
 り向き合い、解決に努めてまいり
 ます。

質問
 (木葉)



給付型奨学金制度創設

道議会四定期 質問 (12月2日)
木葉淳

答弁
 (鈴木知事)

私たちが、生まれ育った環境に左右
 もいたしましては、本道の子ども



されず、将来の夢や希望に向かつてチャレンジできる環境づくりが重要と考えており、来年四月からスタートする国の制度の運用状況や課題などの把握に努め、引き続き、関係部局による庁内会議において、道としての就学支援のあり方などについて、検討を進めてまいります。

就職氷河期世代等への支援

質問
(木葉)



現在働くことができずにいる方を含めた、就職氷河期世代への就業支援に向けた取組の見通しを伺います

答弁
(鈴木知事)

就職氷河期世代に対する支援についてであります

希望していながら、有期雇用や派遣などの雇用形態にある方や長期間無業状態にある方など、就職氷河期世代の方々は、様々な課題を有しております、その安定的な雇用や社会参加に向けては、それぞれの状況に応じたより丁寧な支援が必要と考えております。

このため道では、先般、府内横断的に設置をしている人材確保対策推進本部に、この世代への支援に向けた「分科会」を設置し、課題の共有や支援策に関する意見交換などを行っているところであります。今後とも、各部局が連携した力でセーリングや安定的な就業への支援などの必要な施策を推進するとともに、国や経済団体などと協力をしながらその活躍促進に積極的に取り組んでまいります。



質問
(木葉)



一〇月から幼児教育の無償化が始ままり、共働きを行う子育て世代が一層増えることと思います。

子どもがインフルエンザ等に罹患した場合、発病している子どもも

を保育園、幼稚園、学校、学童保育に通わせることはできなくなります。共働き家庭、ひとり親家庭にとって病児保育は大変頼りになります。病児・病後保育の施設数、定員について伺います。

また、今後、病児保育施設推進に向けた取組について伺います。



答弁
(少子高齢化対策監)

道におきましては、平成三〇年度末現在、三八市町村において六〇か所、一四七名の受け入れ体制が確保されているところでござります。

道といたしましては、市町村が今年度策定する「子ども・子育て支援事業計画」において、二一ヶ年に即した提供体制の確保方策が適切に反映をされるよう積極的に助言を行なうなどして、病児保育に係る取組を一層促進し、安心して子育てや仕事ができる環境づくりに努めてまいりました。今回の三者協定締結を受け、今後の江別市における生涯活躍のまちづくり構想の見直し、見解について伺います。

江別市にかかる道政課題

質問
(木葉)



道議会会派役員として北海道選出国会議員とともに各省庁への要請行動 (7月31日)

答弁（鈴木知事）

生涯活躍のまち構想への支援についてであります。江別市が掲げるこの構想は、子どもや若者、障がいのある方、高齢者など、多様な主体が交流し、生涯にわたつて安心して生活できるまちづくりを目指すものでありますから、この取組のノウハウや仕組み、成果等を道内各地域が享受できるよう、本年一〇月に協定を締結したところであります。



道といたしましては、この協定を踏まえ、構想実現に向けた開設準備本部会議等への参画や、府内関係課による特別支援チームを設置し、分野横断的な実働支援体制を整備するなど、官民が協働した取

組による地域住民とともに支え合う共生型の全道モデルとして、その成果を全道域に広げ、安心して心豊かに暮らすことができる地域共生社会の実現に向け取り組んでまいります。

質問（木葉）



江別市では、生涯活躍のまち構想の中で、特別支援学校の誘致を掲げていますが、今後の見通しについて伺います。

答弁（佐藤教育長）

江別市のOCRC構想についてであります。障がいのある子どもたち一人一人が、必要な資質や能力を身に付け、自立して豊かな生活を送るために、多様な学びの場をつくりあげていくこと

が重要であり、地域における様々な教育資源を活かしながら、世代を超えた方々との交流の機会や、実習、就労の場の確保などに取り組むことは、高等支援学

校に学ぶ子どもたちにとって、地域や社会への参加促進はもとより、生きがいのある生活を送ることにもつながるものと考えているところであります。

一方、道央圏では、近年、中学校特別支援学級の卒業後に、高等支援学校への入学を希望する者の割合が減少傾向にあり、当面、学校の新設が必要となるほどの入学希望者の増加は見込まれませんが、道教委としては、知事部局等と連携を図るとともに、こうした地域の取組も十分に踏まえながら、教育環境の充実に努めてまいります。



質問（木葉）



ーRについて

ーRの誘致について、知事現に向け、国等の情報収集や提案活動はもとより、現候補地を基本に誘致の可能性を幅広く検討するなど、所要の取組を進めています。

今後は、北海道らしいーRの実現に向け、国等の情報収集や提案活動はもとより、現候補地を基本に誘致の可能性を幅広く検討するなど、所要の取組を進めます。

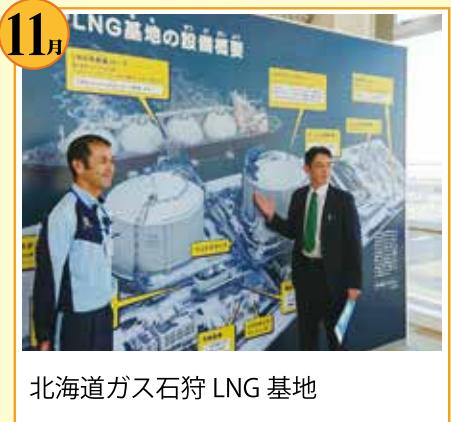
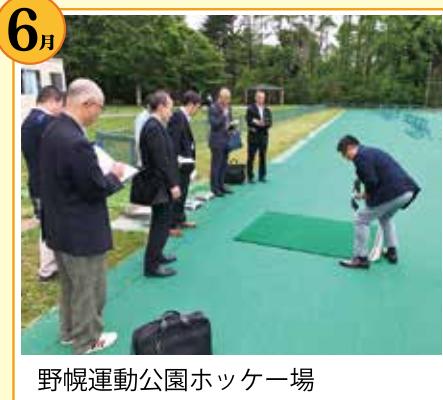
答弁（鈴木知事）

ーRの誘致についてであります。私がいたしましては、さまざまなもの政策を進めていくに当たり、常に幅広い方々のご意見を丁寧にお伺いしながら、考え方を整理し、一道民として、また道民の皆様から負託を受けた知事として、本道の将来にとって何が大切かということを見極めることが重要と考えております。この度のーRの誘致に関しても、こうした考え方を基本に、熟慮を重ね、判断をしたものであります。

また、今後「環境アセス」と誘致に向けた取組を進めていくのでしょうか。見解を伺います。

道議会における私のこの他の質問については、道議会ホームページにてご覧いただけます。

2019年 北海道議会議員 木葉淳 活動記録



木葉 淳(きば じゅん)プロフィール



【住まい】

江別市大麻新町（在21年）

【事務所】

〒069-0813

江別市野幌町79-7ホワイトピア野幌2階
TEL011-382-1437 Fax011-382-1401

【経歴】

- 函館市生まれ ○函館市立北高校卒業
- 北海道教育大学札幌校卒業 ○江別市立江別第二小学校・
江別市立対雁小学校など 石狩管内の小学校で25年勤務
- 2019年4月北海道議会議員初当選

道政アンケート

(送付は木葉淳道政事務所 又は FAX011-382-1401 へ)
今後の道政運営へのご意見をお聞かせください。

お名前

ご住所

お電話番号